



米山奨学委員会 学校等／地区委員会意見交換プログラム 報告

米山奨学委員会
委員

久保 幸一

(大阪難波RC)

日時 2015年7月15日(水) 14時～16時

場所 ガバナー事務所

参加者 地区米山奨学委員

参加校 大阪大学、大阪教育大学、大阪市立大学、立命館大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪産業大学、大阪商業大学、大阪電気通信大学、追手門学院大学、関西大学、関西医科大学、関西外国語大学、近畿大学、相愛大学、梅花女子大学、摂南大学、大阪国際大学、東大阪大学、滋慶医療科学大学院大学、大阪日本語教育センター、大阪ハイテクノロジー専門学校、大阪コミュニケーションアート専門学校

2015年7月15日(水) 14時より地区米山委員会と大学・専門学校との意見交換会をガバナー事務所会議室にて開催。

当日は酷暑の中、大学20校、専門学校4校、総勢29名の担当の方に出席していただいた。

田中副委員長司会のもと、福田委員長が挨拶し、ロータリー米山記念奨学事業「豆辞典」を使い1952年から始まる歴史を紹介。またホームカミング制度(米山奨学生を卒業した方を米山学友と呼び、その学友が母国から日本へ戻り現在の活躍を報告する事を補助する制度)や台湾、韓国、中国、タイ、バンコク、ネパールに於いても学友会があり、活躍している学友たちの事、学友から178名がロータリアンになっており、学友を中心に発足したRCが有る事を伝えた。また台湾の学友が日本人の留学生にだけ奨学金をだすという恩返しをしている事も説明。奨学生卒業後も素晴らしいヒューマンネットワークが有ることを伝えた。多様性が有る方がより切磋琢磨できるという想いで、大学以外の教育機関にも地区奨励プログラムにて4名採用予定で有る事を説明した。

大学等からの推薦についての説明では、1カ国に偏らないことに配慮し、ロータリー活動に理解のある学生

の選考をお願いした。当地区は学力だけでは審査せず、面接を行い、グループディスカッションでの集団性、リーダーシップ、協調性等を見せてもらい、人柄で採用させていただく事を伝えた。「ハイライトよねやま184号」も用い、大地震に見舞われたネパールの為に募金活動に奔走した奨学生たちを紹介し、このような活動を理解し行動できる方を採用したいと伝えた。

また今年度の地区のテーマ「出逢えてよかった」について、委員長の気持ちとしては、それに「お互いに」を付け足し奨学生とロータリアンが互いに逢えて良かったと思える関係作りをしたいと熱い想いを伝えた。今回出席の大学関係者の中に当地区でお世話をした学友がおり、奨学生を卒業し母国と日本の架け橋として頑張っている方がここにもいる事を伝えた。その上で、米山奨学金制度はお金を渡すだけの支援ではなく、お金を貰うためだけの方の推薦は止めてくださいと説明した。

続いて大学等の担当者の方に事前をお願いしたアンケートの内容について、学内の募集・審査・面接・選考・ロータリーへの推薦に至る流れを各校に発表していただき、確認・質疑を行い、採用されるためのアドバイスを通じ、被推薦者の人物像を明確にしていった。

最後に古城副委員長が挨拶をし、指導教官の重要性を訴え、また我々が多様性を求めている事を改めて伝えた。

今回の意見交換会を踏まえ、来年も発展させながら、成果をお互い認識できる様にしたいと熱い想いを伝え、閉会した。

